

次世代リーダー育成事業 事業企画スペシャリスト養成講座

「いのち輝くARTs for Beyond SDGs KANSAI ～ 大阪・関西万博に向けて」第2回企画

会場：世界文化遺産 京都 醍醐寺

事業計画 ご案内

主催：次世代リーダー育成事業 実行委員会/一般社団法人夢洲新産業・都市創造機構

後援：一般社団法人関西経済同友会

次世代リーダー育成事業「事業企画スペシャリスト養成講座」は 若手人材の **企画力育成** を目的とした事業です

持続可能性への意識の高まり、多様性やガバナンスなど新たな社会規範の登場、戦後の平和を支え続けた国際レジームの綻びなど、今、社会のパラダイムが大きく変化し始めています。こうした中で新たな未来を切り拓いていくためには、過去に学び未来を予測する思考力と、他者に共感を与え行動を促す表現力を備えた、社会を動かすことのできる企画力が重要となります。

そこで、日本の歴史上の偉大なイノベーターたる弘法大師と豊臣秀吉の営みが宿る醍醐寺において、未来を担う若手人材の企画力を育成するために、次世代リーダー育成事業「事業企画スペシャリスト養成講座」を開講することとしました。

「いのち輝くARTs for Beyond SDGs KANSAI ～ 大阪・関西万博に向けて」の企画趣旨

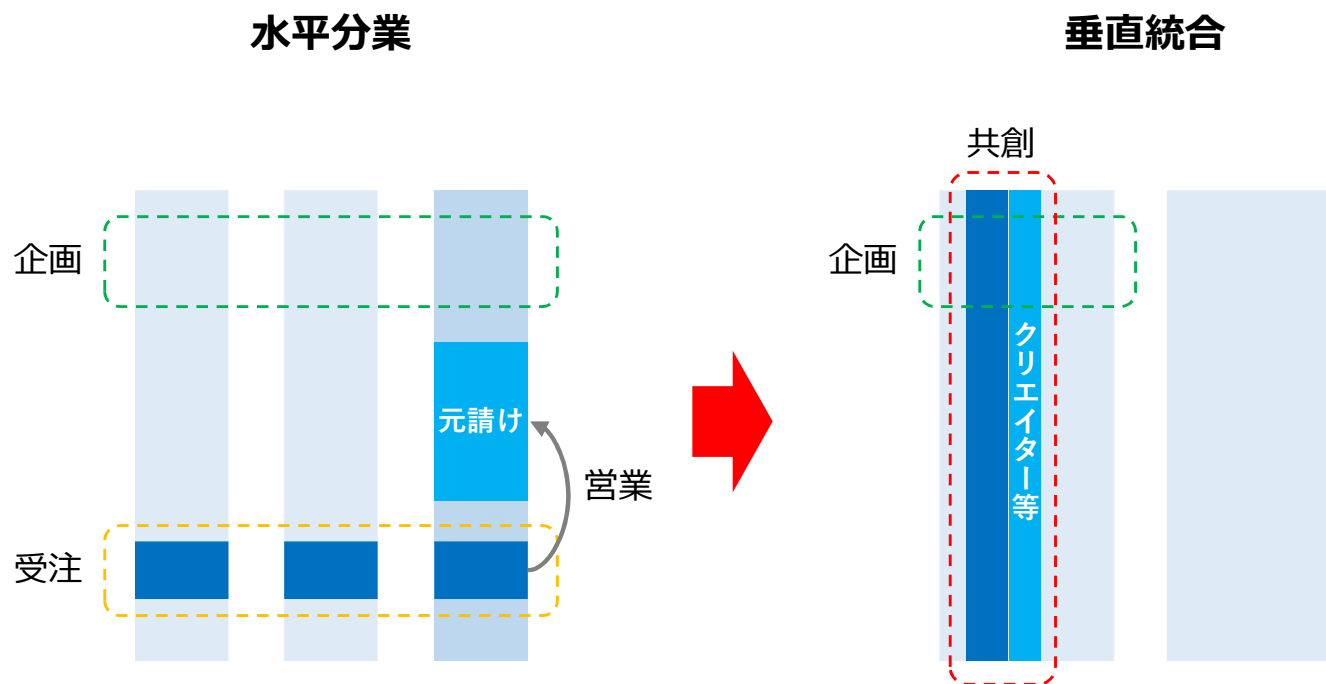
SDGs達成の目標年である2030年まで残り5年となる2025年に開催される大阪・関西万博は、SDGs達成に向けた取り組みを加速させ、さらにその先、Beyond SDGsを提示する重要なミッションがあります。

生物多様性、国家間の経済格差、文化、宗教、人種、民族の違い、ジェンダーフリーなどの多様性を理解し、課題解決への新たな価値観を創造することが、いのち輝く未来への持続可能な社会発展の基盤となります。ダイバーシティ・インクルージョンも芸術・アートもSDGsの17のゴールに掲げられていないが、それはむしろ18番目のゴールと考えられるのではないのでしょうか。心に影響を与え、潜在意識が変わることにより行動変容が起こることを考えれば、ひとりひとりの心の中に根付くいのちへの思いと未来を拓く創造力が、SDGsの17のゴールを達成し、Beyond SDGsを導く源泉になります。

◆ 「企画力」の重要性について

社会のパラダイムシフトが進む中、企画力は全てのビジネスで重要となります

かつて、水平分業型のビジネスモデルでは企画は事業の川上で行うものでした。しかし、価値観の多様化、生産性重視、創造性重視などの要因により、多くの産業分野において垂直統合型のビジネスモデルへと変革が始まっています。こうした中では、企画力の高さが競争力の優劣を決する重要な要素となります。



石川勝塾長講演録より

◆ 「企画力」の重要性について

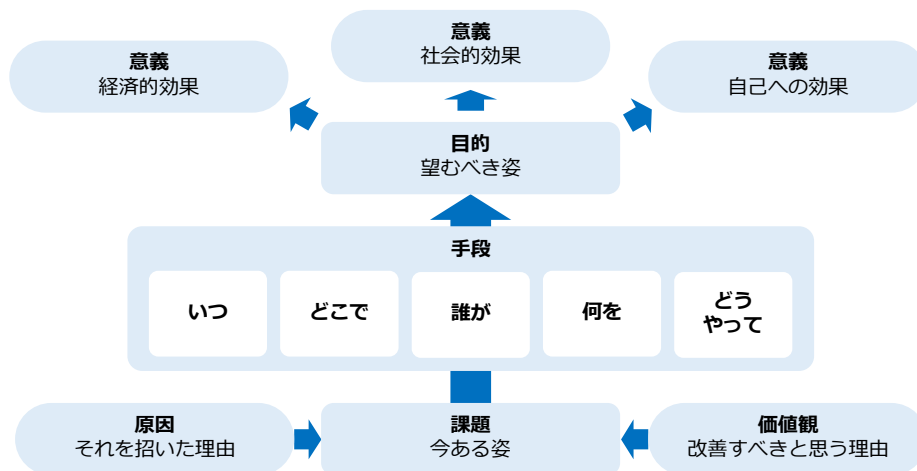
「企画力」とは？

目的と意義を明確化して、 それを実現するための「手段」を構築する力

自分や社会の価値観と照らして改善すべきと思うことがでてきたらそれが「課題」です。課題が見つかり、それをあるべき姿にしたいと思う気持ちが湧いてきます。それが「目的」です。目的が達成されると実現されかもしれない効果、それが「意義」です。

では、目的を達成するためにはどうすれば良いのでしょうか？
いろいろな「手段」を考えるとします。誰かの理解を得るために、あるいは費用や期間を明確にするために、5W1Hを整理し、表現方法を工夫すると思えます。これが「企画力」です。

石川勝塾長講演録より



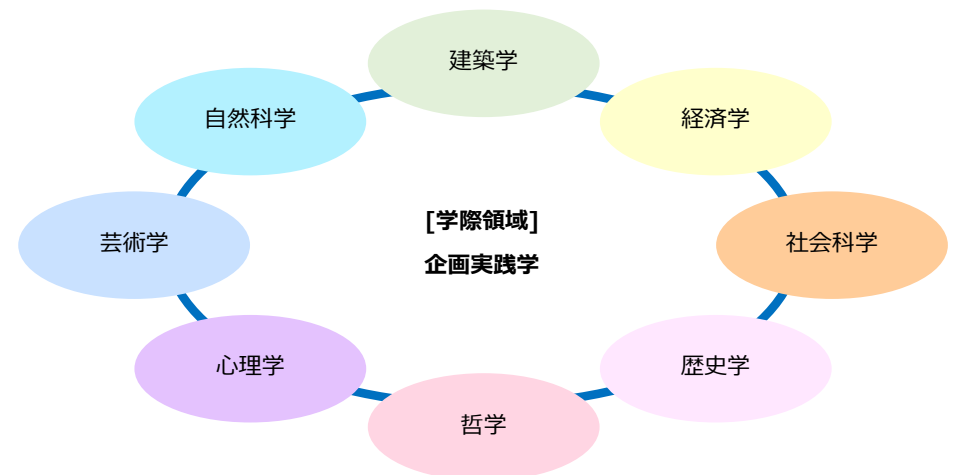
物事を多角的に捉え、 行動を通して「知」を蓄え、活用する力

物事を企画する際は、一つの視点から眺めるだけでは不完全です。関連する分野について一定の専門性を備え、多角的に捉えることが重要です。

同時に、こうした行為は理論だけで行うのでは不完全です。実際に行動して、他者と対話する中で最適解を導くことが重要です。

課題が複雑化する現代社会においては、多彩な学問分野と融合した学際領域として、行動を通して「知」を蓄え、活用する企画実践学を確立し、優れた「企画力」を備えた人材を育成することが重要です。

石川勝塾長講演録より



短期集中、少数精鋭

期間は3ヶ月間、人数は40名。少人数で一定期間集中的に取り組むことで、効率的にスキルアップすることができます。さらに、異分野の塾生と濃密な時間を共有することで、生涯に渡って支え合える仲間を得ることができます。

各界のトップクラスの専門家・経営者から直接学ぶ

企画づくりは知識と創造力と技術が必要です。各界のトップクラスの専門家は深い専門知識に加え、幅広い知見と数多くの経験を積み、企画作りに必要な技術を身につけています。社会のリーダーとして日々困難な決断を下す経営者は判断の基準となる豊富な知識を備えています。こうした専門家や経営者から直接学ぶことのできる貴重な機会を得ることができます。

学びと実践の両立

知識の習得において座学は重要です。しかし企画づくりは、知識を組み合わせる一つの物語をつくり出す構成力が不可欠です。構成力を習得するためには、実際に企画をつくり、発表し、評価されることが重要です。本塾においてアイデアソンを通して企画づくりを実践することで、真に役立つ実力を身につけることができます。



石川 勝 プランナー / シンク・コミュニケーションズ 代表 / (公社)2025年日本国際博覧会協会 会場運営プロデューサー

1963年札幌市生まれ。プランナーとして、イベントプロモーション、文化・商業施設開発、コミュニケーションデザイン分野で実績を積み、2004年株式会社シンク・コミュニケーションズ設立。博覧会や展示会を数多く手掛け、2005年愛知万博ではチーフプロデューサー補佐として基本計画策定に従事、ロボットプロジェクト、愛・地球広場、極小IC入場券をプロデュースした。ロボット分野、コンテンツ技術分野に専門性を持ち、2006年から2016年までの10年間、東京大学IRT研究機構プロジェクトマネージャー・IRTコンテンツ部門長。「先端融合領域イノベーション創出拠点（少子高齢社会と人を支えるIRT基盤の創出）」などの産学連携事業を推進。経済産業省「今年のロボット大賞」事務局長(2006-2008)、「技術戦略マップ（コンテンツ分野）」委員（2008-2015）、「上海万博日本政府館ロボット出展事業」実行委員長(2010)、「デジタルコンテンツEXPO」エグゼクティブプロデューサー(2008-2017)、「あいちロボットショーケース」プロデューサー(2019-2020)。大阪公立大学客員教授。



石黒 浩 大阪大学教授 / ATR石黒浩特別研究所客員所長 / (公社)2025年日本国際博覧会協会 テーマ事業プロデューサー

1991年、大阪大学基礎工学研究科博士課程修了。工学博士。2009年より大阪大学大学院基礎工学研究科システム創成専攻教授。ATR石黒浩特別研究所客員所長（ATRフェロー）。2017年から大阪大学栄誉教授。研究対象は、人とかかわるロボットやアンドロイドサイエンス。主要な科学雑誌や国際会議で発表し掲載された論文は300本以上。また、ロボビー、リプリー、ジェミノイド、テレノイド、エルフォイドといった、人とかかわるヒューマノイドやアンドロイドを開発。これらのロボットは、ディスカバリーチャンネルやNHK、BBCほか、500を超える番組で取り上げられている。2009年には、メディアアートの世界的なイベントの1つであるアルス・エレクトロニカ・フェスティバルのメインゲストとして招待された。2011年、大阪文化賞受賞。2015年、文部科学大臣表彰受賞およびシェイク・ムハンマド・ビン・ラーシド・アール・マクトゥーム知識賞受賞。2020年、立石賞受賞。



奥山 清行 工業デザイナー / (株)KEN OKUYAMA DESIGN 代表取締役

1959年 山形市生まれ。ゼネラルモーターズ社(米)チーフデザイナー、ポルシェ社(独)シニアデザイナー、ピニンファリーナ社(伊)デザインディレクター、アートセンターカレッジオブデザイン(米)工業デザイン学部長を歴任。フェラーリ エンツォ、マセラティ クアトロポルテなどの自動車やドゥカティなどのオートバイ、鉄道、船舶、建築、ロボット、テーマパーク等のデザインを手掛ける。2007年よりKEN OKUYAMA DESIGN 代表として、山形・東京・ロサンゼルスを拠点に、デザインコンサルティングのほか、自身のブランドで自動車・インテリアプロダクト・眼鏡の開発から販売までを行う。2013年ヤンマーホールディングス株式会社取締役役に就任。2013年から2016年には有田焼創業400年事業「ARITA 400project」プロデューサーを務めた。2016年8月、カリフォルニア モントレーカーウィークにおいて「kode57」を発表。滋慶学園COMグループ名誉学校長、アートセンターカレッジオブデザイン客員教授、山形大学工学部客員教授。



落合 陽一 メディアアーティスト / (公社)2025年日本国際博覧会協会 テーマ事業プロデューサー

1987年生まれ。東京大学大学院学際情報学府博士課程修了(学際情報学府初の早期修了)、博士(学際情報学)。筑波大学准教授・デジタルネイチャー推進戦略研究基盤基盤代表・JST CREST xDiversityプロジェクト研究代表・一般社団法人xDiversity代表理事。2015年World Technology Award、2016年Prix Ars Electronica、EUよりSTARTS Prize受賞。Laval Virtual Awardを2017年まで4年連続5回受賞など、国内外で受賞多数。個展として「Image and Matter (マレーシア・クアラルンプール,2016)」や「Imago et Materia (東京六本木,2017)」、「ジャパニーズテクニウム展 (東京紀尾井町,2017)」、「落合陽一、山紫水明の事事無碍の計算機自然」(東京・表参道,2018)、「質量への憧憬(東京・品川, 2019)」など。グループ展では「Ars Electronica Festival」 「SIGGRAPH Art Gallery」, 「県北芸術祭」や「Media Ambition Tokyo」などに参加。近著として「日本進化論(SBクリエイティブ)」、「デジタルネイチャー(PLANETS)」、写真集「質量への憧憬 (amana)」。



堤 浩幸 富士通(株) 執行役員 (SEVP JapanリージョンCEO)

1962年山梨県生まれ。慶応義塾大学理工学部卒、米国スタンフォード大学 ビジネススクールのスタンフォード エグゼクティブ プログラム修了。IT 事業に 長年携わっており、日本、欧米、アジア企業においてグローバルなマネジメントを経験。また B2B、B2C、B2B2C の全ての事業モデルのオペレーションをリード/経験し、DXの事業、価値創造に力を注ぐ。1985年日本電気株式会社入社。2009年シスコシステムズ合同会社 上席副社長 就任。2015年サムスン電子ジャパン株式会社 代表取締役 最高経営責任者 就任。2017年株式会社フィリップス・ジャパン 代表取締役社長 就任。2022年富士通株式会社の執行役員SEVP/JapanリージョンCEO 就任。現在、日本の公共社会インフラビジネス、ミッションクリティカルビジネス、さらに地方行政/民需、医療、文教など富士通ジャパン(株)のオペレーションを統括。DXの推進、教育、サステナビリティにも熱心に取り組んでおり、各サミットやフォーラムのゲストスピーカーや大学の外部講師に招かれている他、やまなし大使、株式会社アルム社外取締役、テンブル大学日本校理事、一般社団法人日本スポーツ・ヘルスケア・デザイン推進機構理事を務める。

世界文化遺産 京都 醍醐寺

醍醐寺は、874年に弘法大師空海の孫弟子、理源大師聖宝によって開創されました。上醍醐と下醍醐の約200万坪の広大な敷地を有し、京都府内で最古の木造建築の五重塔など国宝75,537点をはじめ仏像、文書、絵画をはじめとする古代、中世以来の貴重な寺宝は約15万点にも及びます。

本坊的な存在の三宝院は、建物の大半が国の重要文化財に指定されており、中でも庭園全体を見渡せる表書院は、桃山時代の寝殿造り様式を伝える建造物として、国宝に指定されています。三宝院庭園は、慶長3年(1598)に豊臣秀吉公が「醍醐の花見」に際して自ら基本設計をした庭であり、今も桃山時代の華やかな雰囲気を与えています。

弘法大師という大師号は、醍醐寺の初代座主である観賢僧正が醍醐天皇に願い出て下賜された諡号（しごう・生前の社会に対して貢献の大きかった方に朝廷より送られるお名前）です。弘法大師は、修行を通して自らの心と体で学んだことを「実修」、学んだで得たことを人々のために活かして行くことを「実証」とあらわし、この二つの修行、即ち“入りて学び、出でて行ふ”ことを「実修実証」として説かれました。この「実修実証」こそが醍醐寺塾の目指すところであり、「醍醐寺塾」と呼称します。



◆ プログラム

学びと実践の両立を実現するために、各回とも午前中は第一線で活躍する講師による講義を行い、午後は塾長の指導のもと塾生自らが事業企画を実践するワークショップを行います。



学び (講義)

- 各回の午前中は、講義による「学び」の場とします。
- 各界のトップクラスの専門家や経営者から、物事を捉える視点や事業企画の発想法などを学びます。
- なかなか接する機会のない著名な講師と少人数でじっくりと対話することのできる貴重な機会となります。



実践 (ワークショップ)

- 各回の午後は、ワークショップによる事業企画の「実践」の場とします。
- 塾生自身が企画を考え、発表し、評価し合うことで、事業企画のスペシャリストに必要なスキルを習得します。
- プランナーとして数多くの実績を持つ塾長から、事業企画の技法やノウハウの指導を直接受けられる貴重な機会となります。



◆ スケジュール（予定）

	第1回 9月14日（水）	第2回 9月24日（土）	第3回 10月7日（金）	第4回 11月2日（水）	第5回 11月15日（火）
午前	講義 講師：石川 勝	講義 講師：落合 陽一	講義 講師：奥山 清行	講義 講師：石黒 浩	講義 講師：堤 浩幸
昼	昼食	昼食	昼食	昼食	昼食
午後	ワークショップ	ワークショップ	ワークショップ	ワークショップ	ワークショップ

◆ 講義概要

月日	9月14日(水)	9月24日(土)	10月7日(金)	11月2日(水)	11月15日(火)
時間	10:00 - 12:00	10:00 - 12:00	10:00 - 12:00	10:00 - 12:00	10:00 - 12:00
講師	石川 勝	落合 陽一	奥山 清行	石黒 浩	堤 浩幸
題名	事業企画の意義と基本技法	計算機と自然	ビジネスの武器としてのデザイン	人間やロボットの基本問題と発明・発見の方法	グローバルマネジメントにおけるDXとSF思考
概要	プランナーとしてこれまでに手掛けてきた実例を通し、課題の解決に対して事業企画が重要な役割を持つことを解説します。 さらに、事業企画を策定するために必要となる基本技法を説明します。	デジタルファブリケーションと自然、持続可能性とデジタルテクノロジーについての議論を深め、地産地消の自然と共存するテクノロジーのビジョンや最新の事例について共有し、今後の未来ビジョンの策定についてSDGsとの関わりやサーキュラーエコノミーとの関連性について議論し、今後の研究の方向性や産業のあり方を議論していきます。	仕事の課題は「デザイン」で解決できる。世界的企業の工業デザインやブランディングを手掛けてきた経験と知見をもとに、デザインをビジネスに活かすためのヒントを提示するほか、トータルプロデュース・デザインを手がける温泉リゾート施設「四季南陽」の取り組みなど、具体的な事例を紹介します。	これまで研究者として、クリエイターとして、様々なロボットや情報システムを開発してきました。それらのシステムの開発経緯を紹介しながら、どのように発想を得てきたかを紹介します。	これまでの経験をベースとしたグローバルマネジメントとイノベーションの実践、さらにSF思考とDXによる豊かで持続可能な社会の構築/創造につき、具体的な事例も含めてご説明します。
到達目標	事業企画の意義について理解する 事業企画の基本技法を理解する	テクノロジーと自然についての俯瞰的な視座の獲得	課題解決の為の着眼点、仮想を立ててからのリサーチ、デザインシンキングの手法を理解する。	基本問題を考える重要性を理解する 発明や発見における方法論を学ぶ	グローバルビジネス推進についての知識習得 DXがもたらす価値創造の習得 SF思考の理解
進め方	通常の講義形式	通常の講義	通常の講義形式	通常の講義形式	通常の講義形式

◆ ワークショップ概要

月日	9月14日(水)	9月24日(土)	10月7日(金)	11月2日(水)	11月15日(火)
時間	13:00 - 16:00	13:00 - 16:00	13:00 - 16:00	13:00 - 16:00	13:00 - 16:00
ファシリテーター	石川 勝				
内容	<p>アイスブレイク： 参加者同士で自己紹介等を行い、コミュニケーションしやすい雰囲気づくりを行います。</p> <p>グループワーク①： 参加者を複数のグループに分け、事業企画の対象としてふさわしい課題の抽出と分析を行います。</p>	<p>グループワーク②： 前回のグループで抽出した課題について、あるべき姿となる目標と、それが達成された時に期待できる意義を設定します。 グループ単位で発表し、互いに評価し合います。</p>	<p>企画発表①： グループワークで設定した課題について、目標を達成するための手段となる事業企画を考え発表します。 企画発表は各自が行い、参加者全員が対話形式で評価を行います。</p>	<p>企画発表②： 前回に引き続き企画発表を行います。</p>	<p>企画発表③： 前回に引き続き企画発表を行います。</p> <p>総評： ワークショップ全体を通じた総評を塾長より行います。</p>
目的	<p>環境やエネルギーなど世界的な規模のものから、家族やコミュニティなど身近なものまで、社会的課題について注意深く観察する力を養います。 また、ファクトと主観の切り分けなど、情報分析間ノウハウを習得します。</p>	<p>課題解決に重要となる目標の設定及び、課題や目標、意義といった概念を論理的に構築する能力を養います。 また、グループで事業企画を行うことで、異分野の人材との協業のノウハウを習得します。</p>	<p>グループワークで得た体験を元に、個人での事業企画能力の習得をはかります。 事業企画において重要となる目標と手段の関係性について理解を深め、情報収集とクリエイティビティを組み合わせた事業企画のノウハウを習得します。 事業企画を推進する過程においては対話が重要であることへの理解を深め、異なる意見を取り入れながら企画を進化させる力を養います。</p>		

スケジュール

2022年	5月	講師依頼
	6月 - 7月	協賛企業募集
	6月 - 8月	塾生募集
	9月 - 11月	次世代リーダー育成事業「事業企画スペシャリスト養成講座」実施 * 2023年以降も継続開催予定

定員

40名

受講費

1名 20万円 (税別)

協賛金

一口 35万円 (税別)

一口あたり2名の塾生を受け入れます。公式ウェブサイト、広報物等に、協賛額に応じ、社名を表示いたします。
1年間（2022年）の金額となります。

主催

次世代リーダー育成事業 実行委員会
一般社団法人夢洲新産業・都市創造機構

後援

一般社団法人関西経済同友会

特別協力：世界文化遺産 京都 醍醐寺



事務局：株式会社健康都市デザイン研究所
大阪市北区梅田3丁目4-5 毎日新聞ビル8F
お問合せ/事務局：info@yumeshimakikou.com
06-6136-8803